

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

事業所番号	0190500660		
法人名	株式会社 じょうてつケアサービス		
事業所名	グループホーム菜の花豊平館		
所在地	札幌市豊平区豊平3条8丁目1-18		
自己評価作成日	2020/8/26	評価結果市町村受理日	令和2年12月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyosyoCd=0190500660-00&PrefCd=01&VersionCd=02
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	企業組合グループ・ダイナミックス総合研究所 介保調査部
所在地	札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階
訪問調査日	令和2年9月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・発電機、避難スロープ、ジェットヒーター等、災害に対して特化した設備を整えている。
・働きやすい環境作り(有給の取得、業務整備、確認しやすい環境など)
・入居者様と家族様との関係維持への働きかけ(介護・行事への参加)
・新しい事へのチャレンジ(新しいニーズが生まれた際、ホームで行った事が無い支援でも必ず検討し、実現に向けての取り組みが行えている)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、札幌市豊平区の市街地に位置し、国道36号線に近く、地下鉄東西線東札幌駅及び東豊線豊平公園駅から徒歩圏内にある2階建て2ユニットのグループホームである。近隣には事業所や学校、コンビニエンスストアやドラッグストアなどの商店があり利便性のよい立地である。法人は、総合的な事業展開をしている老舗のグループ企業の傘下で、2002年から介護事業に進出し、認知症高齢者グループホームや居宅介護支援、通所介護、小規模多機能型居宅介護、サービス付き高齢者向け住宅などを運営しており、本社が当事業所の近隣で、事業所の敷地は法人の歴史ある場所でもある。建物には太陽光パネルを設置し、照明等に活用するなど災害対策も防火扉や避難スロープ、備品等を整備し対応している。一昨年から変更したケア理念「らしさ活かして・・・」に基づいて、認知症の原因別によるケアの計画を作成しており、利用者一人ひとりの個別ケアの推進を強化しており、認知症高齢者グループホームの目指すものを追求している。これからも地域の認知症ケアの事業所として期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらい 3 家族の1/3くらい 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ケア理念を基に運営計画を立案し、理念にそって、入居者様らしさを考えたサービスの質向上に努めている。理念がケアプランと結びつく様、会議や日常の中で話し合いを実施している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を基盤に、町内清掃、児童会館との定期交流、近隣飲食店との物資提供等を企画する等、地域との交流を図っている。		
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域向けに発行する広報紙に事業所での支援内容を記載したり、館として、認知症相談窓口（玄関に掲示）の機能をはたすことで、積み上げてきた支援を活かせる様にしている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の様子を報告し、頂いた意見や評価を参考にし、サービス向上に取り組んでいる。また、その結果についても報告している。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を中心に、取り組みについての意見交換を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し（会社全体と各館に於いて）、じょうてつケアサービス全体では身体拘束を行わない方針であることを全ての職員周知している。また、カンファレンスや社内研修にて、身体拘束に関する勉強会を定期的に行っている。		
7	7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、カンファレンスや社内研修にて、不適切ケアを知り、その防止の為の知識や方法をともに学んで、虐待防止の意識を高めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて権利擁護に関して学ぶ機会を持ち、必要性について話し合いの場を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定・重要事項説明書を用いて、契約時に本社から十分な説明を行った上で契約を結んでいる。また、ご家族の疑問点等に関しては、都度説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や日々の面会等を通じて頂いたご家族の意見をカンファレンスや日々の申し送りにて、各職員に周知し、それを活かした運営を行っている。また、ご家族の面会時に職員が日々の状況を伝える事で、意見を言いやすい雰囲気づくりに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、面談を通じ、職員からの意見を抽出、業務内容の変更やケアの方向性等が反映出来る様にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員目線では、将来の待遇面(金銭、時間、休暇等)に対しての不満、不安は改善されないが、現場環境の整備は教育課の基で進められており、一定の働きやすさはある。故に現時点では働く事が出来るが向上心を持って働く環境にはなっておらず課題が残る。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験や意欲を考慮し、法人内外の研修への参加、新たな資格の取得が出来る様に整備、支援を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	管理者連絡会、外部研修等のグループワークを通じて交流が行われている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安等を傾聴し、安心して頂ける様、信頼関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と共にケアの方向性等を決めていく事で信頼関係が築ける様に配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族とよく話し合いを行い、ホームで支援出来る事、出来ない事をはっきりと伝えた上で支援検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にある“その人らしさ”の理解に日々努めながら、暮らしをともにする関係を徐々に築く事ができている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の心身状況の変化等を都度ご家族に伝達し、時に相談する事で、共にご本人を支えていく関係を築いている。また、行事等を共に企画、運営する事で、関係をより良い方向にする事が出来ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ユニットとして、ご本人に馴染みのある人や場所の関係を継続して支援していく重要性についての意識が薄く、その場での対応、支援が見られている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の進行から、他者との交流が全体的に難しくなっている。職員が寄り添う事で孤立する事がない様に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	管理者は、サービス利用が終了しても、必要に応じ相談等に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話・表情等、職員同士の情報共有を基に意向や、暮らし方の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご家族に情報を頂き、ご本人に確認しながら、馴染みの生活、習慣が継続出来る様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンス等で共有を行っているが、職員の入退職や個々職員の認識の違いにバラツキがある。統一した認識が課題である。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンス、モニタリングで課題を取り上げて検討を行って、ご家族や他職種に相談した上で介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご本人の実際の言葉を引用して記録する事で、職員間で状況を把握しやすくなり、具体的な記録の記入が出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせて、カンファレンスを中心に話し合いを行っている。人員不足から既存サービスにとらわれない・柔軟な支援まで至ってないが、新しい職員の意見の中で既存にとらわれない視点や発想が見られる事もあった。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域を意識し、暮らしを少しでも楽しめる様、児童会館や近隣飲食店等との交流を図る支援を行っている。。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療・病院については、ご家族の希望に合わせて対応している。心身の状態をかかりつけ医に報告し、日常生活のアドバイスや薬の調整を行って頂いている。かかりつけ医と報告・連絡・相談を欠かさずに行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師及び協力医療機関の看護師に都度、心身の状態を報告し、助言を受けながら、受診やかかりつけ医の往診に繋げている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、ご家族と密に連絡を図り、医療機関に適切な情報共有を管理者を中心に行っている。医療機関、ご家族と直接相談しながら、早期退院が出来る様に連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期が予想される時は、説明を行った上で、ご本人やご家族の意向を「私が望む医療・望まない医療」に記入して頂き、意向に沿った形で対応する体制を整えている。また、その時の状況で、意向の変更については、その都度話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の一部は救急救命講習を受講している。社内研修として、会社が中心として、他職員も受講出来る様整備をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	H31年度は3回の避難訓練を実施。備え付けている設備の使用方法。安全に避難誘導を行う方法を学び実戦形式の訓練を行っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にある“その人らしさ”の理解に努めながら、言葉かけについて、カンファレンスを中心に話し合ったが、職員目線で支援している事が一部見られる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を聞き出す声掛けやアプローチは行えている。実践については個々で行えている方と行えていない方がおり、全ての入居者様には至ってない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	個々のペースに沿った支援を行っている。職員間で情報共有しながら支援を行っているが、一部の入居者様の行き過ぎた要求に対する対応に、職員間でバラツキがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人が、衣類を選択出来る様な声掛けや身だしなみを整えられる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ自分で食事を行って頂く事が出来る様、食器や盛り付けや味の濃さなど工夫を行っている。食事準備や後片付けが出来る方には一緒に頑張って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせ栄養摂取が出来る様に食事形態や嗜好品の使用など工夫している。また、夏季や必要時には、ゼリー等を準備して水分確保に配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにより、必要に応じた介助を行っている。断られた際は、時間をおいて声掛けを行っている。必要な方は、歯科往診で口腔ケア・治療を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各入居者様の排泄パターン、習慣、間隔などの情報をカンファレンスを中心に共有し、排泄の失敗が減らせるよう配慮しているが、職員によって対応にバラツキがある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな方には適度な水分を提供したり、運動の働きかけをしている、また、そうした工夫で、便秘解消が難しい方は、かかりつけ医に相談して、必要に応じた支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	曜日は決めている。職員間でその人らしさについて話し合い、希望や体調等、そのタイミングに合わせて入浴出来るよう対応している。また、安心して入浴して頂く為に、必要な方には職員2人介助で対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	元々の生活習慣や個々の体調、体力に応じて休息を支援している。夜間は、ドアの開け閉め等に留意し、ゆっくりと休める様に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬情報をスタッフ全員が確認する事を徹底している。薬の変更時は、スタッフに口頭で伝えたり、往診記録や連絡ノートに記載し、情報共有に努めている。ただ、職員により、薬の知識にバラツキがある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備等、お手伝いを通して、入居者様に役割を持って頂く事で、張り合いのある生活を送れるよう支援している。また、舞踊動画の視聴、ラジオでスポーツ実況を聞いたり、作品の製作等、個々の趣味嗜好に合わせた支援も行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい時期は散歩に行ったり、外気浴を行っていた。誕生日プレゼントやおやつを買う為、職員とともに店に出かけたりしているが、慢性的な人員不足があり、回数は少ない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別にお小遣いを所持している方はおられず、必要物品の買い物はご家族か、事業所で代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が、家族様に電話をかけたいと希望する時は、管理者とリーダーが、取次ぎの支援している。家族様から手紙が届く事があるが、やりとりは行っていない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と一緒にフェルトで作成したカレンダーを使用したり、季節に合わせた飾りを入居者様と共に作成し、共用空間に季節感を取り入れる工夫をしている。また、庭園に植花をしたり、玄関前のカウンターに花を置き、一緒にお手入れする事で、生活感や季節感を感じられる様に取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて、入居者様同士が過ごしたり、時に、一人一人の居場所として過ごせる様、食卓以外のテーブルやソファ、リクライニングチェアを使用し、工夫している。また、食卓テーブル席にも仲の良い入居者様同士が座れる様に、席の並びを工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人や家族様と相談の上、入居時に馴染みの家具や日用品を使用して頂いている。ご家族等との思い出の写真を居室に飾る事で居心地良く過ごせる様に工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には、手作りの表札をつける事やトイレの入り口を示す表示をつけることで、ご本人が混乱しない様にしている。また、夜間帯の安全確保の為、足元を照らすライトがあり、手すり代わりに椅子を使用することで、転倒防止に努めている。		